

学校を飛び出して、
池田高校の先輩を取材しよう！

使命感をもって 仕事に取り組むこと

大垣消防組合
消防士・救助隊長 中迫孝行さん



大垣消防組合で消防士・救助隊長として活躍している中迫孝行さんに、仕事の内容やこの仕事に至るまでをインタビューをしました。

事だと思う。

Q: 勤務中の一日のスケジュールは？

基本は二十四時間勤務。朝は八時半に出勤して翌日の八時半までで、その次のグループがまた翌日の八時半までというように三つのグループで回って勤務している。朝は消防車などの点検をして、昼は事務仕事や訓練など就いている係やその日の都合によってやることを決める。夜ごはんを自炊し、二十時半から次の日の七時半までをグループの中でさらに三分分かれて、仮眠時間を割り振り、交代してとつていく。

Q: 救助隊長とはどんな仕事なのか？
主に災害救助現場に隊長として出動して、患者さんの状態、隊員の管理をしながらどのように救出するかをプラン作りする。そのプランを伝えて隊員を動かす。また全体を見て、足りてない部分の指示を出す。救助隊長としての仕事の他に、事務仕事や救急車に乗ったり料理や洗濯などもする。

Q: この仕事をしなくては中での苦労は？

人の命や財産を守っていく仕事なので、いかにミスをせずにやっていくかが大切である。だから訓練を通して現場ではどのように動くかを想定しなければいけない。また土砂やゲリラ豪雨などの被害が増えてきているので、そのような環境の変化に対応していくことである。

Q: 苦労もある中で、感じられるやりがいなどは？

苦労があったからこそ人を助けることができたこと、大切なこともあると考えながら訓練や勉強を現場で生かすことができたときに、達成感を感じられること。また、危険があつて当たり前前の現場なので、いかに安全にやっていくかを考えていく中で、無事に帰ってこられる事がほっと感じられる部分である。



Q: 仕事は好きですか？

仕事は好き嫌いでやるものではないと私は思う。好きだからやる、嫌いだからやらない、適当にやるという事ではないと思う。仕事に就いた以上、どうい姿勢で向き合おうとかが大切だと思う。この仕事に関して言うと、使命感をもって取り組む

Q: 高校生の時から救助の仕事に就きたいと思っていたのか？
高校時代は何も考えていなかった。その頃は部活であるサッカーを夢中でやっていた。

Q: いつ頃から消防の仕事に就きたいと思っていたのか？
大学に行つて、就職活動を始めた頃からいろんな職業について調べていく中で、多くの選択肢があつたが、この職業がいいのではないかと感じた。

。相手のことを理解したうえで現場に行くこと「この場面では相手は苦手なことがあるからこうしよう」というように現場での判断にもつなげることができる。

Q: 消防士になる決め手になったことは？
公務員という安定した職業だということが一番大きなものではあつた。ちょうど僕らの頃から就職難というものが多かつたし、体を使つてできるような仕事がいいと思つたのも理由の一つ。トータルして考えるとやはりこの仕事が一番、魅力を感じたので選びました。

Q: 災害が起こりやすくなつてしまふ時期は？

最近が変わつてきているが、年間を通して火災が多いのは冬場。空気が乾燥していて暖をとるための熱源がいっぱい使われるのでそういったところから起きる可能性が高い。

Q: 高校生に向けて、防災についてやってほしい事などはあるか？
高校生くらいになると状況判断がある程度できるので、一番、活発に動ける年代だと思う。だから、災害弱者と呼ばれる高齢者や小さな子供など、そういった方々が何かがあつた時に、手助けしたり、避難所まで案内したりしてほしい。また、若い世代の意見が通ることもあるので、ハザードマップを見て危ない箇所を家族や地域、学校などで話してほしい。これから先、地震の知識を深めていき、たくさんの方に気づいてほしい。

Q: チームワークをよくするためにしていることは？
意識しているのは雑談。仲良くするには、雑談をするのが一番いいのではないかと思う。コミュニケーションをとると、相手の好きなことや嫌いなこと、上手にできることなどが理解できるようにな

る。後悔のような思いがあるのは、勉強。それができず、できないというわけではなく、物事に対する姿勢として、それができなかったことに少し後悔している。やっつけてよかったと思うことは、興味を持ったことには何でも挑戦してきたこと。大学の時にはバイトも幅広くやっていた。またサッカーが好きだったが、友達に誘われて全く違うジャンルのハンドボールをやってみたりした。そうすることで知識を増やしていった。このような事をやってきたおかげで、色んな事に目を向けられるようになった。

Q: 中迫さんが高校時代にやっておいてよかった、やっておけばよかったと思う事は？
後悔のような思いがあるのは、勉強。それができず、できないというわけではなく、物事に対する姿勢として、それができなかったことに少し後悔している。やっつけてよかったと思うことは、興味を持ったことには何でも挑戦してきたこと。大学の時にはバイトも幅広くやっていた。またサッカーが好きだったが、友達に誘われて全く違うジャンルのハンドボールをやってみたりした。そうすることで知識を増やしていった。このような事をやってきたおかげで、色んな事に目を向けられるようになった。



取材・記事・岩田 湧樹

私はインタビューを実際に見て、質問の掘りさげ方や笑顔で相手が思う自分の印象を気にしながらうまく話すのが難しかった。実際にインタビューをして記事に起こす仕事をしている方はすごいと感じた。一番印象に残つたのは、「仕事は好きですか？」という質問に対して「仕事は好き嫌いで行うものではなく、使命感をもって行うものだ」と話されたもので、僕ら高校生がもっている仕事に対する価値観と実際に働いている方との仕事の価値観は違い、もっと多くの仕事について知りたいと感じた。